

## 令和5年度 第2回伊賀市子ども・子育て会議 議事概要

**日 時** 令和6年3月22日(金) 午後3時～4時45分  
**場 所** 伊賀市役所 501 会議室  
**出席者** 中井委員、米野委員、窪田委員、前川委員、山本倫子委員、三井委員、平野委員、上堀委員、谷口委員、林崎委員、佐治委員、松田委員、坂井委員、山本いずみ委員、富田委員(欠席者:高本委員、渡邊委員、福永委員)

### 開 会

- ◇出席者数の確認(15名/18名)と会議の成立について
- ◇会議の公開について

### 1. あいさつ

- ◇谷口健康福祉部長あいさつ
- ◇資料の確認

### 2. 報告事項

#### (1) 保育の利用定員の変更について

- ◇資料 1-1、1-2、1-3 説明(保育幼稚園課長)  
(質疑)

※※委員 待機児童はいないのか。  
保育幼稚園課 今年度の待機児童は5月にならないと分からないが、令和5年度の4月段階では3名であった。

※※委員 周りでは「入れない」という声をたくさん聞いている。それなのに330人減ると聞いて驚いている。それによって入れない人が3名ということか。  
保育幼稚園課 特定の園を希望されていたり、就労時間が短いなどのために入られていないケースがある。

※※委員 行きたい園に行けない方が3名ということか。  
保育幼稚園課 入所調整をしているが、市街地の園を希望されている方が他園で良いということであれば私的待機ということになる。

※※委員 こんなに減らしても大丈夫なのか。中規模園を3つ閉めるぐらいになる。今、共働きで入れていない人は、減ってしまったから入れないと感じる。どの学年が入れないのか。年長なら2クラスになっていると思うが。  
保育幼稚園課 3歳児は小学校区を基本に入所調整しており、全員入っている。0～2歳児の入所希望が年々増え、希望年度に入れていない状況がある。伊賀市全体では、希望されている方の量は確保しているが、希望される園があるために入れていない。

- ※※委員 フルタイムで働いているが、きょうだいと同じところに行きたいというすぐには入れない。人数を減らしている割には待機児童がいる。私も働いており、祖父にみてもらっていたが、病気になったため入所を希望している。私の場合は、入りたいところがあって待っている状況である。
- 保育幼稚園課 就労状況も聞き、保育所に入れるよう調整しているが、市街地にある人気のある園には入っていただけない状況である。今後、引き続き、聞き取りをし、保育士を確保し、希望園に入ってもらえるようにしていきたい。
- ※※委員 保育園の現状として、保育士の数が年々減っている。入れてあげたい現状に対して保育士が足りない。心を痛めている。
- ※※委員 保育士確保の状況について何かあればお聞きしたい。
- ※※委員 年々子どもが減っているが、一人当たり職員何名かというのは決まっていると思う。子どもの人数は減少傾向になり、保育園は合併ということも出てくると思う。旧阿山では合併の検討があり、玉滝は子どもの人数が最小限のため、反対もあったが、そうせざるを得なかった。法律があるので従わなければならない。減少傾向にある以上、合併の問題も出てくる。他市町では保育料無料というところも出ている。伊賀市でもそういったことを考えて、転入を増やして税収を増やして、これから伊賀市を担う子どもを増やすことを考えて欲しい。
- 保育幼稚園課 子育て施策には伊賀市も力を入れている。保育料は令和元年度から無償化しており、副食費も来年度から無償化するよう予算を計上しており、4月から実施する。統合については、公立の保育所は民営化計画を進めている。20名以下のところは閉園の対象として、民営化と統廃合を進めている。統合にして集約することで預かれる子どもも増えると思っている。
- ※※委員 量の確保と見込みについての地域間のアンバランスの問題と、確保したいが保育人材が不足している状況がある。重要な2つの話が出てきた。
- ※※委員 女性も働かないと生活が成り立たない。物価が上昇し、給料が上がらず、二人で働いて生活している。昔は祖父、祖母に見てもらった。今は二人で見えて、保育所でみてもらわざるを得ない。給料が上がれば良いのだが。
- 保育幼稚園課 保育料は上がっていない。3歳児以上は無償であり、0～2歳は所得に応じて設定している。来年度から、保育料の見直しを行い、所得によっては3割減となる。
- ※※委員 事業者から数を減らして欲しいという申し出があって減らしたということだが、人材不足、保育士不足のために難しいという問題なのか、床面積不足なのか。ニーズがないからというわけではなさそうだが、なぜ減らさずなのか。人材不足であれば、潜在保育士がいるはずだが、伊賀市として戻ってきて欲しいという声かけをして努力しているのか。旧郡部の園は空いているが、事業所側、市側、保護者のニーズをくみ取って、うまく調整できているのか。
- 保育幼稚園課 1点目の事業所の申し出については、面積ではなく保育士不足が原因である。潜在保育士もたくさんいると思うが、公私立ともに保育士不足であり、さまざまな媒体を使って募集していきたい。入所調整の際には必ず聞き取りし、住まい、勤め先、希望を聞いて入所調整している。

- ※※委員 介護については、補助として資格がなくてもできる部分があるが、保育士は市独自で補助を入れることで、何人か追加できるという代替案のような対応策はないのか。他市町であるのなら検討してもよいのではないか。
- 保育幼稚園課 補助の方も採用している。来年度、保育補助への予算を付ける予定にしている。
- ※※委員 定員はこれまで面積に対する人数として出していた。適切な保育を求められる中で、離職される方が多い。保育補助には協会も力を入れており、声かけをし、少しでもという活動をしているが難しい。保育補助は早朝担当、遅番担当とあるが、田舎では保育士の人数も少なく、勤務時間が労働時間を超えてしまう。早朝、夜間に来てもらうと二人の保育士でみないといけない。補助だと保育士1のカウントにならないので保育士が必要となる。少しでも多くの目で安全にということである。園長会でも毎回潜在保育士がいらないかという声かけをしている状況である。
- ※※委員 現場の厳しい状況が分かる。他にはないか。地域ごとのアンバランスもあったので、希望を聞いているとのことで、そういうものをまとめて資料にしてもらえるとよい。保育士については何かしら新しい取り組みが必要である。
- ※※委員 いろいろな意見が出たので、明確な回答として、結果をどうするかを書面に残して配布してもらうことを希望する。
- ※※委員 次の報告事項の(2)に進める。

## (2) こども家庭センターについて

### ◇資料 2-1、2-2 説明 (こども未来課長)

#### (質疑)

- ※※委員 質問等あればお願いしたい。よろしければ、事項書3の議題に移りたい。
- 次長 先ほどの利用定員の減について補足したい。そもそも伊賀市では子どもが減っている。また、配置基準は決まっており、保育士はきちんと配置している。地域バランスについては、保育所の統合計画に基づいて、子どもの人数、地域バランスをみながら計画的に統合を進めている。保育補助についても、公私立とも対応している。次期の計画でも量の見込みを確保して、子どもの数に応じた保育所の数、保育士の数を確保したい。書面とのご意見であったが、以上、口頭にて回答させていただきます。
- ※※委員 そもそも数が減っているのは分かるが、増やすという考えはないのか。子どもに対して手厚くすべきで、人が減ると伊賀市自体がだめになる。保育士に市独自で25,000円支給したり、職員住宅として8,000円支給したりしている自治体もある。見込みが少ないから少ないほうへもっていくのではなく、増える方へもって欲しい。正直、人は減る一方だが、他の自治体でも特色ある園を作っている。明るく、増やすほうへもってってもらえたらと思う。先日、自然保育を見学し、山の斜面で授業しているのにたった6人の先生でみているという例があった。付きっ切りでみておらず、子どもに責任を持たせている。見守る保育というよりも、「この子はできる」という幼稚園であった。そういう素敵な園の事例を見て、取り入れて、人を増やして欲しい。

部長 今仰っていただいたような自然保育もあるが、公立でやろうとすると厳しい。公立は最低限の水準は持たないといけない。特定の教育への特化は、民営化を進める中では1つの方法かと思う。定員が減ったことについては、市が計画の中で減らしたというわけではなく、現状に合わせて減らしている。職員を確保した中で減らしている。私立保育園の経営にプラスになるように、給付が増えるようにやっている。後ろ向きに減らしているわけではない。これから3年間は国からも補助がついてくる。市としても取り組みをしていくということでご理解いただきたい。数については、来年度の現状に合わせて、私立保育園の経営ができるようにということである。子どもが増えたら、定員は増やしていかなければならない。

※※委員 支援が必要な子どもがいる。民営化されると経営上難しいと言われる。町では受け入れてくれるようになったが、民営化することで入れられないということにならないか心配である。支援が必要な方に対しての受け入れ先がどうなるか。公立が用意するのか。

次長 民営化する中ではインクルーシブ保育という提案をしてもらっている。受け入れができないようになるわけではない。心配いただくことではない。

※※委員 これは正式な最終の説明会か。事前説明会か。

部長 今回は、子どもの計画をつくる審議会である。現在ある計画は来年度終了する。新たな計画として、令和7年度から5年間の計画を作らなければならない。保育士はどうか、子どもの支援をどうするかという意見を聞いて、計画に反映させる場である。要望を聞いて、「できる」「できない」を回答する場ではない。計画の案を作り、市に答申していただく。パブリックコメントなどでも市民の意見を聴く。

※※委員 承知した。

### 3. 議 題

#### (1) 第3期伊賀市子ども・子育て支援事業計画について

◇資料3-1、3-2、3-3、3-4、3-5 説明（こども未来課主幹説明）

(質疑)

※※委員 第2期計画が令和6年度で最終であり、令和7年度からの第3期計画を作る。そのスケジュールと大まかな内容について説明していただいた。

※※委員 だいたいことは理解したつもりだが、質問・意見というよりもお願いになる。アンケートはニーズの把握のためにしていただいている。ただ、計画を策定する上でニーズの多いものを反映させると思うが、ここに表れていない部分もある。家庭を持つのは夢があるが、共働きで、大企業には育児休暇があっても、職人と結婚したらそれがない。そういう場合、子育てを身近な人に頼るというより、保育所の充実が必要である。保育所の充実が「地域で子どもを育てる」という基本理念にもつながる。すべての子どもの育ちが保証され、すべての家庭が安心して子育てできるためには、保育所である。多様化する子どもたちを一人ひとりきめ細かくみようと思ったら、3歳児ぐらいには規定人数プラス補助が必要である。

特に、国も県も伊賀市も、子育てに予算を付けて欲しいという願望がある。そういったことを身近な人の声から感じている。

こども家庭支援課もつくってもらうが、いろんな課があって、どこに相談に行ったらよいのか分からない。ハイトピア、社協、東部サテライトと分散しているので、どこに行ったらよいかと聞かれる。困っている人はどこに行ったら良いか分からない人もいる。せっかくいろんな組織を作っても、相談の場所が分からない人もいるのでぜひお願いしたい。

※※委員

大きなところに目が行きがちだが、小さなところにも目を向けて、子育てに夢や希望が持てるようにする必要がある。子ども家庭センターについては、より分かりやすいようにする必要がある。

他はよいか。令和6年度中に中身を具体化する方向である。それでは、次の事項に進める。

## (2) 青山子育て支援センターの運営体制について

◇資料4-1、4-2 説明（子育て支援室主幹説明）

(質疑)

※※委員

ご質問、ご意見等があればお願いしたい。

※※委員

資料4-2の増築部分をみると、未就学児、駐車場が支援センターになっている。元々、園と連携できていたと思うが、これによって入れる人数が変わるのか。今まで通りで、運営だけ変わるのか。

子育て支援室

保育園と混合になるわけではない。保育園は保育園で、今まで通りの場所である。来てくれる利用者にとって、運営がいきなり変わるのは不安なので、今のスタッフで進める。

※※委員

メリットとしては、園庭を使える。園庭開放時しか使えなかったが、連携することで園庭を使える。運動機能の発達に良い。

子育て支援室

今までも支援センターは園庭を使っている。行事時には交流もしている。土曜日なども使っている。

※※委員

通常の開所時はどうか。

子育て支援室

事業者にも希望を伝えていこうと思う。募集時に、そういうことも含めて、充実する方向に持っていきたい。

※※委員

一体的に使えるようになってもらえればと思う。

※※委員

その他はないか。今後も連携を密に、充実を図っていただければと思う。

## 4. その他

※※委員

その他何かあるか。

では、マイクを事務局にお返しする。

(終了)